



Japanisch-Deutsche Gesellschaft

Die Brücke 架け橋

日独協会機関誌



2024 **12**

表紙の言葉

2024年10月10日から13日にかけてベルリンで日独パートナーシップデイズ2024が開催されました。

会期中は、たくさんの議論や交流だけでなく、文化的な催し物も開催されました。本誌P4～5の参加レポート及び、P11のBerliner Luftで詳しいレポートをお読みいただけます。

写真：

上：集合写真

下：(左から) 侍ミュージアムの能舞台でのパフォーマンス、ベルリン日独センターでのパネルディスカッション、和太鼓演奏

Copy rights © VDJG

Zum Titelbild

Vom 10. bis 13. Oktober fanden in Berlin die deutsch-japanischen Partnerschaftstage 2024 statt.

Neben den vielen Vorträgen und Austauschgelegenheiten, die während der Sitzungsperiode angeboten wurden, gab es auch ein ausgefülltes Veranstaltungsprogramm.

Mehr dazu können Sie in den Teilnehmerberichten auf S. 4-5, sowie im detaillierten Bericht in der „Berliner Luft“ auf S.11 nachlesen.

Bilder:

Oben: Gruppenbild

Unten: (von links) Vorführung auf der Nō -Bühne des Samurai-Museums, Podiumsdiskussion im Japanisch-Deutschen Zentrum Berlin, Taiko-Konzert

Copy rights © VDJG

目次	ページ / Seite	INHALT
10月の協会活動報告	1	JDG-Aktivitäten im Oktober
文化の玉手箱 書籍紹介1: 怪奇の系譜——ヴァンパイアから『鬼滅の刃』へ 田中 洋	2	Kulturkiste Buchvorstellung 1 : Genealogie des Unheimlichen - von Vampiren bis zum „Demon Slayer“. Hiroshi Tanaka
レポート：ドイツ大使主催「夏祭り」 森 宏之	3	Bericht: Sommerfest Hiroyuki Mori
レポート：日独パートナーシップデイズ2024 柚岡 一明 / 賀久 哲郎	4	Bericht: Deutsch-Japanische Partnerschaftstage 2024 Kazuaki Yuoka / Tetsuro Gaku
文化の玉手箱 書籍紹介2: 『ドイツはなぜ日本を抜き「世界3位」になれたのか』 木田 宏海	5	Kulturkiste Buchvorstellung 2 : „Warum Deutschland Japan überholen und zur drittgrößten Wirtschaft der Welt aufsteigen konnte“ Hiromi Kida
ドイツ連邦共和国建国75周年記念 特別企画 林 美媛	6	Zum 75-jährigen Gründungsjubiläum der Bundesrepublik Deutschland Vorstellung der Episoden Mie Hayashi
特別寄稿：ハイデルベルクの夜 間嶋 剛	7	Sonderbeitrag : Nacht in Heidelberg Gou Majima
インタビュー：音楽にあふれた「希望のポスト」 恵谷 英雄	8	Interview : Ein "Wunschposten" voller Musik Hideo Etani
研修生コラム ウィーンからきた現代のエリザベト「日本に着いてから」 エリザベト・ハーライター	10	Kolumne der Praktikantin Die moderne Elisabeth aus Wien „Seit ich in Japan angekommen bin“ Elisabeth Harreiter
ベルリナー・ルフト「日独パートナーシップデイズ2024での活発な交流」 Dr. ヴェレーナ・マテルナ	11	Berliner Luft „Intensiver Austausch bei den Deutsch-Japanischen Partnerschaftstagen 2024“ Dr. Verena Materna
ドイツ経済の動き 第90回 伊崎 捷治	12	Tendenz der deutschen Wirtschaft (90) Shoji Isaki
お知らせ 事務局	13	Mitteilungen Sekretariat der JDG

ドイツ語講習会**2024年度下半期コース**

火～日曜日

Deutschkurse in der JDG

Oktober 2024 - März 2025

jeden Di.-So.

ドイツ時事問題研究会 第103回

10/19(土) 15:00～17:00

Studiengruppe "Deutschland aktuell" (103)

Datum: Sa., 19. 10. 24, 15.00-17.00

10月の主なトピックスは、①連邦財政を予算策定から決算に至るまで監視する連邦会計検査院が連邦議会で審議中の子供基本手当法案について費用対効果などの観点で疑義を表明、②フォルクスワーゲン社が中国ウイグル自治区における事業にかかわる人権問題について公表した報告書についてドイツ第2放送、シュピーゲルなど3社が共同で行った調査に基づいて疑念を公表、③公共交通機関の利用促進のための一律49ユーロのドイツ・チケットが来年から58ユーロに値上げ、④主要経済研究所が共同見通しで2024年の経済成長率をマイナス0.1%に引き下げ、などについて報告。飯塚哲男さんからドイツ鉄道による子会社シェンカー社の売却とデンマークのDSV社による買収について補足し、世界の運輸業の動向について解説いただいた。

「今月のテーマ」では、「どこに住んでも同等の価値ある生活状況を」と題してドイツの地域政策について伊崎から報告。州の間の財政力平準化の制度など、日本との違いなどについて議論した。(伊崎 捷治)

シュプラッハトレッフ (日独言語交流会)

10/19(土) 19:00～20:40

Sprachtreff

Datum: Sa., 19. 10. 24, 19.00-20.40

今回は、私が担当する最初の Sprachtreff でした。参加者は39人で日本人20人、ドイツ人19人でした。

今月の2つテーマは「芸術について話しませんか?」と「今年の秋はどのように過ごしますか?」でした。いつも通り参加者のためにテーマに基づいて語彙リストを用意しました。

私のグループの参加者は本当に芸術と音楽に興味がありましたので、ウィーンのアペラ、歌舞伎と文楽などについて話しました。日本人の参加者には色々な歌舞伎を観るために、おすすめを教えてくださいました。

私の初めての Sprachtreff でしたから、ちょっと緊張しましたが、皆さん本当に優しいので大丈夫でした。次回 Sprachtreff が楽しみです。(エリザベト・ハーライター)

(学生会員向け) キャリアデザイン懇談会

10/20(日) 14:00～16:00

日独協会セミナールーム

Career Design Roundtable

Datum: So., 20. 10. 24, 14.00-16.00

Ort: Seminarraum der JDG

当協会初の試みとなる、学生会員向けキャリアデザイン懇談会が開催されました。これはドイツ語を学ぶ、あるいはドイツに関心のある学生が自己のキャリア形成に対しどのような問題意識、課題を抱えているのかをざっくばらんに話してもらい、当協会として支援できることを探る目的で実施したもので、大学生2名、高校生2名の計4名が参加しました。

懇談会では、まず参加学生に自己紹介と今後のキャリアに関する考えを話してもらった後、若者のキャリア支援について経験の深い佐藤理事より、キャリアとは何か、生き甲斐ある人生を送るための心構えなどについて説明、その後、職業興味を発見するワークショップと楽しく充実した生き方を実現するキャリアデザインを行い、各自の特性を把握する作業をしてもらいました。

参加学生より、この作業を通じて、気づきがあった、キャリアの方向性が見えてきた(特に高校生にとっては大学で何を専攻すべきか分かってきた)等ポジティブな感想が聞かれました。ドイツへの関心と自己の職業の適性をどう結び付けるか、それぞれの模索が続くことと思いますが、当協会としては若者支援の一環として、今後とも年2回の頻度でこのような懇談会を継続していく予定です。(森 宏之)

独逸塾

10/21(月) 19:00～21:00

Gesprächskreis: Neuigkeiten aus Deutschland

Datum: Mo., 21. 10. 24, 19.00-21.00

参加人数 20名

1. テキストは2024年4月10日の Tagesschau の記事 "Jeder Fünfte von Armut bedroht".

1) ドイツ連邦統計局によると2023年でドイツで貧困、社会的孤立に陥っている人々は約1,770万人で人口の21.3%である。

2) ドイツの平均収入の60%以下で生活をしている人々は、一人暮らしをしている人々では手取り月1310ユーロ以下、夫婦と子供二人で手取り月2751ユーロ以下。

2. テキスト2024年3月19日の Tagesschau の不平等社会へのドイツ政府の取り組みに関する記事。

貧困、住宅不足、社会的孤立に焦点を当てている。ドイツでは2030年までに住宅問題を解決するため、賃借法の改正を含め住宅市場の積極的な介入への法律を改正した。

3. テキスト 2024年5月5日の ZEIT ONLINE より „17-Jähriger stellt sich nach Angriff auf SPD-Politiker Ecke“。SPD の議員 Ecke が暴漢に襲われ重傷を負った。ドイツでは政治家を襲う犯罪が頻発している。

4. テキストは 2024年5月11日の ZEIT ONLINE „Gewalt gegen Politiker“

1) ドイツで貧富の格差が拡大するにつれて社会不安が増大している。専門家からは、ドイツ政府は対応策としてキャピタルゲイン課税、法人税の課税強化、所得税の課税強化に注力すべき、との意見が出てきている。専門家らは、現在の新自由主義には反対である。理由は新自由主義により社会的に不利にいる層には更にフラストレーションがたまり、極右勢力が新自由主義を支持しているのにもかかわらず、国民はますます彼らの支持に回るようになると考えるからである。ドイツ語の表現をめぐり活発な議論があった。(森永 成一郎)

懇談会サロン

「カント生誕 300 年—カントの思想に見る近代ドイツの精神と理念、その影響と課題—」
10/28 (月) 18:00 ~ 19:30

日独協会セミナールーム

Gesprächssalon: Der 300. Geburtstag Immanuel Kants

Datum: Mo., 28. 10. 24, 18.00-19.30

Ort: Seminarraum der JDG

講師：大森 一三先生 (文教大学国際学部准教授)

参加者：16名

ドイツ (プロイセン) を代表する哲学者、イマヌエルカントが生誕して今年で 300 年。ドイツ人にとって誇りのカント。カント哲学はドイツの思想革命を引き起こし、ドイツの道徳哲学はドイツ基本法にも影響を与えた。カントと日本の関係では、カント哲学は幕末に日本に紹介され、明治以降日本の思想家や文筆家に大きな影響を与えた。カントはイエズス会の記録を通じ日本についても知っており、植民化しなかった日本の鎖国政策を評価していた。日本がドイツの思想を取り入れた理由として、イギリスやフランスは先進国であり、比較的後進国であったドイツが日本のモデルにしやすいかったと。カント哲学が難しいのは、カントはラテン語で思考し、それをドイツ語で書いているため叙述が難解であると。非常に沢山の事についてご説明頂き、質問もたくさん頂き、大変好評でした。(木田 宏海)

Die Kulturkiste
=文化の玉手箱=



怪奇の系譜——ヴァンパイアから『鬼滅の刃』へ

田中 洋 (杏林大学外国語学部 准教授)

今回紹介する『ドイツ・ヴァンパイア怪縁奇談集』は 1820 ~ 30 年代に発表された 7 つの短編、17 世紀末から 1830 年代までのヴァンパイアにまつわる事件や論文についてまとめられた「ヴァンパイア関連事項年譜」、そして「ヴァンパイア文学のネットワーク」と題された訳者解題からなり、450 頁を超える充実のアンソロジーかつ研究書である。ヴァンパイアあるいは吸血鬼といえば古今東西様々なメディアで愛される題材で、死後蘇り人間の血を吸う、心臓に杭を打ち込まないと死なないといった典型的なイメージは収録作品においてすでに確立されており、その起源から複雑な派生、そして定義の揺らぎや錯綜といった連綿と続く歴史を、本書では十二分に堪能できるだろう。ヴァン・ヘルシング教授もかくやとばかりの活躍をするヴァンパイアハンター、死者をヴァンパイアとして蘇らせたことで呪われ、そのヴァンパイアを退治したにも関わらず呪いで命を落とす君主もいれば、ヴァンパイアと疑われる人物の謎を追うミステリー仕立ての作品、北欧由来と思いきや伝説を取り込み 160 年の時を跨ぐ一大叙事詩もある。さらには、語り手の現実と枠物語 (劇中劇) の内容がリンクする構造を取っていたり、ほっこりとさせられるコメディがあったり、串刺し公ヴラドの伝説を下敷きにしていたりと、キャラクターやストーリーの多彩さには驚かされる。

本書を読みながらふと、吾峠呼世晴のマンガ作品『鬼滅の刃』が心に浮かんだ。こちらは大正時代の日本を舞台に、人間と人を喰らう鬼の戦いを描いたダークファンタジーだ。鬼の血を分け与えることで仲間を増やすというのは同作のオリジナルの要素だが、太陽の下では活動できなかつたり、吸血行為により生命活動を維持する (そもそも生きていけるのか、というツッコミはさておき) 設定は、ヴァンパイアものの系譜に連なるのではないかと。現代日本の創作シーンにもヴァンパイアは脈々と受け継がれているといえそうだ。



『ドイツ・ヴァンパイア怪縁奇談集』
出版社：幻戯書房
ISBN-13 : 978-4864882927

レポート

ドイツ大使主催「Sommerfest（夏祭り）」

9/23（月・祝）12:00～14:00 ドイツ大使公邸

Sommerfest

Datum: Mo, 23. 9. 2024, 12.00-14.00 Ort: Residenz des deutschen Botschafters

森 宏之（日独協会理事）

まだ残暑の日差しがまぶしい9月23日、ドイツ大使館主催の「夏祭り」が今年も開催されました。今回は着任早々の次期大使、ペトラ・ジグムントさんがホストとなり、全国の日独協会でご活躍中の各年代の方々約100名が招待されました。

冒頭挨拶でジグムント大使は、近時注目が集まる日独の政治・経済面での連携強化の土台として、こうした民間の草の根交流がスムーズに行われることが極めて重要であると強調されたのが印象的でした。続いて日独協会東原会長から返礼スピーチがあり、多国籍化する日立グループを例に挙げ、人材の多様性、その活かし方についてお話されました。また10月にベルリンで開催される「日独パートナーシップデイズ2024」についても言及されました。ジグムント大使とは旧知の八木副会長の音頭で乾杯の後、ビュッフェスタイルの食事、グリルでの焼きたてのドイツソーセージ等を楽しみながらの歓談タイムとなりました。今年は室外に出てもそう暑くなく、テラスから外に出て広大な庭園を眺めながら談笑される参加者も大勢見られました。ジグムント大使は開会に先立ち、パーティ会場への入り口で参加者一人ずつご挨拶された上に、パーティ時間中も積極的に参加者にお話しされ、早速多くのファンを獲得されたようです。中締めには大使への感謝を込めて花束を贈呈し、記念の集合写真を撮影して散会となりました。参加された方々からは、大使のざっくばらんなお人柄に触れられ良かった、全国各地の日独協会の方と有用な情報交換できたとの声が寄せられました。以下にその一部を紹介します。



参加者全員でパチリ！



左から、袖岡常務理事、フート首席公使、八木副会長、東原会長、ジグムント大使、レツフェルハート公使



参加者同士、会話に花が咲きます。



ジグムント大使

写真提供：ドイツ大使館

大使のくださった貴重な交流機会

上野 弥生（日独協会理事）

久しぶりに大使館主催の Sommerfest へ、張り切ってドイツの民族衣装ディアンドルを着て、参加させて頂きました。さわやかで気持ちの良いお天気にも恵まれ、お庭で焼いたグリルソーセージや豪華なドイツ料理ビュッフェを堪能しつつ、全国からご参加の会員との交流を楽しみました。新任のジグムント大使にもご挨拶をさせて頂き、笑顔が素敵で、気さくな優しい方という印象でした。参加者は、20～80代と幅広く、職業も様々でしたが、お互いのドイツ経験や各地の日独協会活動の様子、これから活動してみたいこと等をお話しました。東京に限らず、人口減少が進む中でのイベントや語学講座の参加者確保問題は共通の課題で、今後はオンラインをもっと活用して、全国の会員との繋がりを模索したいと思います。

大使館にご招待頂ける、というのは会員ならではの特別な機会で、この貴重なひと時をご提供くださいました大使に、心から感謝申し上げます。

ドイツ大使主催 Sommerfest（夏祭り）に参加して

赤沼 大樹（大阪日独協会）

7月末にフォン・ゲッツェ前駐日ドイツ大使が離日されて、後任のペトラ・ジグムント次期駐日ドイツ大使が8月初めに着任されました。この度は、ジグムント大使のご厚意により、大使公邸でのパーティーに御招待いただき、はるばる大阪より参加いたしました。

今年は各地の日独協会役員や協会活動で大いに活躍している幅広い層の会員の皆様一堂に会し、お互いに日頃の各地の日独協会の活動状況などをシェアしあいながら日独文化交流における人脈を広げる事が出来、大変有意義な時間となりました。

加えて、10月にベルリンで行われるセレモニー“Deutsch-Japanische Partnerschaftstage 2024”へ一緒に出席する日独のユースメンバーと共にジグムント大使へ意気込みをお伝えし、激励を頂戴出来た素晴らしい謁見でした。今後益々の日独交流発展に寄与するべく、ベルリンでは有意義で活発な話し合いとなる様に積極的に参画すると共に、帰国後はその経験を活かして、大阪日独協会や各地の日独協会・ドイツ各地の独日協会とも手を取り合って、より一層この環を盛り上げていきたいと意気込んでおります。

改めまして、この様な貴重な機会を提供してくださったジグムント大使と、ご準備いただいた関係各所のスタッフの皆様へ厚く御礼申し上げます。

「日独パートナーシップデイズ 2024」開催概要

柚岡一明（日独協会常務理事）

写真コピーライト：©VDJG

10月に開催された日独パートナーシップデイズ2024について報告いたします。

日程：2024年10月10日～13日

場所：ベルリン日独センター（JDZB）

主催：日独協会連合会（VDJG）

参加者数：参加者数150名、うち日独協会所属会員50名、日独協会：21協会、日独協会：12協会

10月10日(木)

日独関係の観点から見るキャリア形成フォーラム・パネルディスカッション

主催：日独産業協会（DJW）と日独青少年協会（DJJG）

歓迎レセプション：

場所：在ドイツ日本国大使館

ピアノ演奏：木村舞美子氏

10月11日(金)

日独パートナーシップデイズ2024開会式

開会宣言：ユリア・ミュンヒ（JDZB事務総長・VDJG理事）

主催者挨拶：フォルカー・シュタンツェル（元駐日大使・VDJG会長）

「2018年の金沢宣言で掲げられた『多様性、ネットワーク、持続性』をモットーに、近年の世界情勢やパンデミック後の課題に対応するため、新たな新たな目標を議論する場とする。」



東原会長のビデオメッセージ

祝辞：東原敏昭 全国

日独協会連合会（VJDG）

会長（ビデオメッセージ）

「日本各地の日独協会

の若者会員14名を招待。今回の会議は、持続可能な日独協力のため、日独交流において重要なテーマを議論し、互いをよりよく理解し、文化の違いや共通点を確認する場とする。特に若者の積極的な参加を期待している。」

パネルディスカッション「激動の時代の日独関係」

司会：フォルカー・シュタンツェル VDJG 会長

パネリスト：八木毅前駐ドイツ大使・JDZB 総裁、ゲアハルト・ヴィースホイ JDZB 評議会議長

パネルディスカッション「日独交流における若者世代」

司会：ユリア・ミュンヒ JDZB 事務総長・VDJG 理事

パネリスト：司徒友依（日独ユースネットワーク・ハロープログラム・リーダー）

オリバー・ポール（日独青少年協会会長）

柚岡一明（VJDG 事務局長・日独協会常務理事）

ミヒャエル・ドレーヴィング（Animexx e.V. 理事）

Bar Camp（ワークショップ）：

進行役：ピア・マイト（日独協会アム・ニーダーライン会長）、アンネ・ポムゼル（DJW 事務局長）、オ

リバー・ポール（DJJG 会長）

「日独青少年交流」、「日独対話の促進」、「日独文学交流」、「日独ネットワーク形成」、「大阪万博への取り組み」、「日独の写真・芸術交流」の6つのテーマに分かれて討議。

懇親会

場所：サムライ博物館ベルリン

出演：アンサンブル Minichestra、アントンニア・シュテッカー（舞踏家）、三味線コンサート、「LION」による和太鼓パフォーマンス

10月12日(土)

午前：前日の BarCamp

の成果発表とディスカッション、質疑応答

午後：テーマ別ワークショップ、プレゼンテーション



BarCamp 成果発表

大ホールでのプログラム

・木工伝統工芸技術の体験型プログラム「UTSUWA プロジェクト」講演：内田利恵子建築家

技術協力：沖本雅章、ユストゥス・キッスナー

・日独演劇共同公演プロジェクト

講演：楠根重和石川日独協会名誉会長

・庭園文化の日独比較

講演：クリストフ&くみこ・おがわ＝ミュラー（ビーレフェルト日独協会会員）

・ポップカルチャーを通じた日本にアプローチ

講演：ファビアン・クライン&ボユルン・ザンダー（Animexx e.V.）

セミナールーム1のプログラム

・日独関連のキャリアパス交流

進行：柚岡一明・高山フロリアン

・日独友好協会の展覧会プロジェクト

対談：ゲルガルト・キューパート&アンナ・グレンパー（エンゲルベルト・ケンペン協会会員）

・JDZBの40年の歴史

講演：ユリア・ミュンヒ JDZB 事務総長

・日本の剣術「香取神道剣術」入門

実演：セバスチャン・グレーツ皇神館道場師範

全体会議

ベルリン宣言（案）の説明

シュタンツェル連合会会長より「ベルリン宣言案」について説明。会議参加者より意見、コメントを多数頂き、参加者の意見を反映させて後日「ベルリン宣言」をまとめることとなった。

閉会コンサート

演奏：ミニケストラ（Minichestra）

10月13日(土)

旧ベルリン王宮見学ツアー

(ガイド：アレクサンダー・ホフマン博士、ベルリン国立博物館アジア美術学芸員) 対象者：希望者

展示会

協会紹介ポスター、ベルリン独日協会と(公財)日独協会の日独MANGAコンクール入賞作品は11月末までベルリン日独センター内に展示

10月14日(月)～15日(火)於：リューネブルク

日本からの参加者の内、希望者はリューネブルク独日協会主催の見学プログラムに参加し、同独日協会会員との交流を深めた。

今回の会場のご提供や運営に多大のご支援・協力頂いたベルリン日独センターの役職員の皆様に心より感謝申し上げます。

「日独パートナーシップデイズ2024」に参加して

賀久 哲郎 (日独協会理事)

10月10日から13日までベルリンで開催された「日独パートナーシップデイズ2024」に参加しました。9月に、派遣メンバーに選出された14名の若い日本人参加者と一緒に事前打ち合わせを行ないました。

ベルリンは5年ぶりで、秋の気温8度～15度の寒さに驚きつつも懐かしさを感じました。滞在初日にはベルリン日独センターを訪問し、ユリアさんに館内を案内していただきました。大会議室や図書館など立派な施設に、日本にもこのような拠点があればと感じた次第です。

10日夜には在ドイツ日本大使館での歓迎レセプ

ションに参加しました。日本からの若者14名に無事に再会できたことに安心しました。レセプションでは、各地の独日協会の代表者や会員、ドイツで活躍する方々とも交流し、多くの新しい出会いがありました。11日は約150名の参加者で開会式が行われ、パネルディスカッションや「若者世代の役割」をテーマにした対話が展開され、活気を感じました。

BarCamp(ワークショップ)では、各テーマごとに活発な意見交換が行われ、日本からの参加者も現地の方々の輪に積極的に入り、国際的な議論を楽しんでいました。翌12日はディ



活気あふれる意見交換

スカッションの報告があり、どのグループも白熱した討論がされ、意義ある意見交換がされていました。

12日に発表されたベルリン宣言案に対し、多くの参加者から発言があり、参加者の意見を反映させたベルリン宣言を作成することとなりました。

日本からの14名の若者は非常に積極的で、国際交流の場でその存在感を発揮していました。14名に感想を聞いたところ「沢山の日独の方々と知り合い、会話と意見交換ができ、本当に有意義な時間であった」と異口同音に語りました。今後彼らが日独協会の「核」として活躍することを心から期待し、私もできる限りバックアップしていきたいと強く感じています。

Die Kulturkiste
=文化の玉手箱=



「ドイツはなぜ日本を抜き「世界3位」になれたのか 「GDP逆転」納得の理由」熊谷 徹著

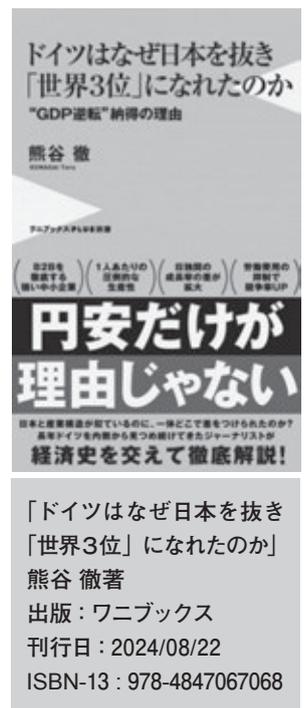
木田 宏海 (日独協会理事)

ミュンヘン在住のフリージャーナリスト熊谷徹氏から、8月に出版された最新の著書を日独協会に寄贈頂いたのでご紹介いたします。

2023年の日本の名目GDPが、55年ぶりにドイツに抜かれ第4位になりました。日本経済がバブル崩壊後伸び悩んだのに対し、ドイツが2010年以降名目GDPの成長率で日本を上回ったからでした。ドイツが約半世紀の時間をかけて日本の背後に迫っていたところへ、ドイツのインフレと円安が名目GDPを引き上げ順位が逆転しました。ドイツの人口は日本よりも約3分の1少なく、年間労働時間も268時間(17%)短く、ドイツの労働生産性が日本を上回っていることも一因です。働き方を見直すきっかけにすべきと筆者は訴えています。また「15分で読めるドイツ産業史」「ドイツ経済の危機」「日独再生のカギは高技能移民の受け入れとDX」等についても書かれています。日本とドイツは、「過去の栄光を失いつつある物づくり大国」という共通点があります。順位逆転をきっかけに、日本が将来進むべき道について考察されているので、是非手に取ってお読み頂きたい。

【著者紹介】

1959年東京生まれ。早稲田大学政経学部卒業後、NHKに入局。ワシントン支局勤務後、90年からフリージャーナリストとしてミュンヘン市に在住。著書に「次に来る日本のエネルギー危機」「ドイツ人はなぜ、1年に150日休んでも仕事が回るのか」「住まなきわからないドイツ」「なぜメルケルは「転向」したのか」「偽りの帝国・フォルクスワーゲン排ガス不正事件の闇」「ドイツは過去とどう向き合ってきたか」など、これまでドイツに関する著書を28冊執筆。



「ドイツはなぜ日本を抜き
「世界3位」になれたのか」
熊谷 徹著
出版：ワニブックス
刊行日：2024/08/22
ISBN-13：978-4847067068